

「平成30年度に実施した仕事」の振り返りシート

記入日 平成 31 年 4 月 12 日

仕事の内容	小中学校英語指導助手派遣事業					
担当部署・課長名	教育指導	課	指導	係	課長名	佐藤 洋士

この仕事は、どの【施策】の課題を解決するための手段ですか。	施策番号	1 - 1	-
【施策名】 学校教育の充実	総合計画書 (ページ)	31	

予算名	款 ¹⁰	教育費	項	1	教育総務費	目	3	教育指導費	事業	15	国際理解教育推進事業
-----	-----------------	-----	---	---	-------	---	---	-------	----	----	------------

1 この仕事の目的	① 誰(何)を対象にしていますか。	① ①の対象数や量を、あらわすもの(対象指標)
	①市立小学校に在籍する生徒 ②市立中学校に在籍する生徒 →	①3~6年生児童数※平成30年度より3、4年生も対象となる。 ②生徒数
	② ①をどのような状態にしたいのですか。[簡潔に]	② ②の状態になった数・量をあらわすもの(成果指標)
	①市内小学校に在籍する児童に外国語を学習しながら、外国の文化等に直接触れる機会を与えることで学習意欲を高める。 ②都学力調査において市平均をあげる。 →	①東京都児童・生徒の学力向上を図るための調査における問い「英語を使える(英語を聞いたり話したりして、思っていることを伝え合える)ようになりたいですか。」について、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」に回答した数値(%) ②都学力調査 英語の市平均正答率(%)
	③ そのために何をしましたか。	③ ③をどのくらい行いましたか(活動指標)
	①小学校外国語(英語)活動にあたり、外国人講師を派遣し、言語や外国の文化に直接触れる学習を行っている。 3、4年生 1学級あたり年間6コマ(時間) 5、6年生 1学級あたり年間24コマ(時間) ②中学校の外国語(英語)授業あたり、外国人講師を派遣し、言語指導を行っている。 1~3年生 1学級あたり年間9コマ(時間) →	講師派遣日数 ※平成30年度より、時間単価契約から日単価契約に変更したため、活動指標にも変更が生じている。

		単位	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度実績	平成31年度目標	平成32年度目標	
2 指標の推移	対象指標	①の数値	人	①1,507 ②2,084	①1,444 ②2,124	①3,003 ②2,100		
	成果指標	②の数値	%	①不明 ②48.4	①不明 ②55.2	①86.1 ②48.5		
	目 標	②の目標値	①%②点			①90%②56.7点	①90%②都平均点	①90%②都平均点
		目標値設定の考え方	①英語に対する学習意欲がある児童について全体の90%以上を目指す②都の平均点					
	活動指標	③の数値	日 (H29 まで時間)	942	1,004	455		

3 経費	事業費(実績)		円	6,918,048	6,939,649	11,793,600	※人件費の所要人数は、基本的には「人」で表わしますが、一時的な仕事については時間数での表示も可とします。その場合単位を「時間」に変更してください。 人件費(再任用職員以外) 年間単価は、8,244,000円 時間単価は、4,200円 で計算してください。 【算出根拠】平成29年度決算数値。(退職手当組合負担金、共済費も含む。)
	財源	一般財源	円	6,918,048	6,939,649	11,793,600	
		特定財源	円				
		(うち受益者負担)	円				
	人件費(目安)	所要人数(再任用以外)	人	0.01	0.01	0.01	
		所要人数(再任用)	人				
	職員人件費(再任用以外)	円	82,670	82,530	82,440		
	職員人件費(再任用)	円					
	事業費+人件費	円	7,000,718	7,022,179	11,876,040		

この仕事における市の裁量 市の裁量は大きい

4 環境変化	この仕事の開始時期(開始年度)、何を目的に開始していますか。
	①学習指導要領の改訂に伴い、小学校5・6年生において外国語活動が必修化された。また、外国語に対する学習意欲を高めることを目的として、英語指導助手(外国人講師)を活用している。 ②生徒の外国語に対する学習意欲を高めることを目的として、英語指導助手(外国人講師)の活用が求められている(開始時期:昭和63年度)。
	開始当初と比較し、状況の変化はありますか。 ①平成32年度新学習指導要領全面実施に伴う小学校英語教科化において、外国語活動時間数が大幅に増加することとなった。それに伴い、平成30年度から3、4年生に外国語講師の派遣を新たに実施し、5、6年生の外国語講師の派遣時間数を増加させた。 ②平成30年度より、時間単価契約から日単価契約に変更したため、授業時間以外も児童生徒と一緒に活動できるようになっている。

仕 事 の 内 容	小中学校英語指導助手派遣事業			
担当部署・課長名	教育指導	課	指導	係 課長名 佐藤 洋士

5 市民等 の 意見	この仕事に関して、平成30年度中に寄せられた市民・議会等の意見、また、市民・サービス利用者等の実態やその意識について		
	特になし		

6 市民協働	(1)市民協働の取組を行いましたか。ある場合は、取組手法の種類から番号を選択。（複数回答可）		
	取組みは無い	取組手法	【取組手法の種類】 ①共催 ②実行委員会・協議会 ③事業協力 ④事業委託 ⑤補助・助成 ⑥情報提供・情報交換（広報媒体： ） ⑦後援・場の提供 ⑧その他（ ）
	(2)平成31年度に向け、さらに適した協働の形態とするための「考え」又は「気付いた」点		

7 課 題	(1)「平成29年度に実施した仕事」の振り返りシート 「7 課題(2)」の内容		
	児童生徒の学習意欲を高め、学力向上を図る創意工夫が必要である。		
	(2)(1)の課題解決に向けた取組や、事務改善など、平成30年度に実施したこと。 時間単位で配置していた外国人講師を1日単位で配置し、授業時間に限らず給食等も児童生徒と一緒に活動できるように工夫した。 児童生徒が英語と触れ合う機会を増やすことで、児童の英語や異文化に対する学習意欲を高めるよう努めた。		

8 今 後 の 方 向 性	(1)仕事の方向性（「7 課題(3)」の課題解決に向けた具体的な改革・改善案など） 外国人講師派遣の時間数の増加を目的に予算の増額を検討する。 外国人講師とともに授業を実施する教員の能力を高めるため、外国語指導に関する研修を実施する。		
	(2)上記(1)の改革・改善案を実現するために、克服すべき問題点、必要な調整・準備等 外国語指導における課題は、各学校により異なるため、各校の意向を確認したうえで調整し実施する必要がある。		
	(3)改革・改善案による期待成果 上記(1)の改革・改善案を実施することで、成果面と経費面で現状からどのように変わりますか。		
	成果	成果を向上させる。	経費